國學院大學学術情報リポジトリ

文化的景観の博物館学的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大藪, 茉奈, Oyabu, Mana メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2534

論 文 要 旨

学籍番号	203329	氏 名	大藪 茉奈
論文題目： 文化的景観の博物館学的研究			
(内容の要旨)			
<p>本論は、文化的景観について博物館学的視点から述べるものである。</p> <p>2004年の文化財保護法改正により新設された文化的景観の区分は、ユネスコにも存在する概念であるが、文化財保護法では「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と定義づけられる。</p> <p>世界遺産条例と文化財保護法の文化的景観は、共通して人間と自然環境が相互に影響することによって形成された景観と定義されているが、史跡名勝天然記念物保護法や伝統的建造物群をも含む世界遺産条例の文化的景観に比べ、文化財保護法では保護対象がより狭義となっている。</p> <p>文化的景観は、その保護対象を価値あるものに限定していないことから、文化財の裾野を広げる存在となっている。これに加え、「点の保存」はなく「面の保存」のみが存在している点や、変化を前提とした「生きた文化財」である点で、独自性が確立されている。しかし、それゆえに「文化財としての価値」を感じ難く、博物館でも十分に活用されていないのが現状である。その他、文化的景観制度については、制度自体の曖昧性や地域住民の意識づくり等について問題点が指摘されている。本論では、文化財保護法に定義される文化的景観の課題について、博物館学的視点から考察している。</p> <p>地域に近い文化財である文化的景観だが、これまで行われてきた重要文化的景観に関する日本の野外博物館展示や室内展示には、多くの改善すべき点が挙げられる。それらは文化的景観自体を野外博物館として設立することによって改善を図ることが出来るが、文化的景観博物館の実現自体にも多くの問題点が存在し、また実現したとしても文化的景観制度及び博物館の文化的景観活用には課題が山積する。</p> <p>しかし、「地域に根ざした、人々に一番近い専門機関」である博物館こそ、文化的景観に関与すべき施設であり、情報発信すべき機関である。博物館施設は、より一層地域に近い文化財についての調査研究を行い、また積極的に関連する展示を開催することによって、文化的景観展示の理想を迫すべきである。殊に、「面の保存」である文化的景観の博物館展示は、通常の展示技術では困難であり、博物館は工夫を重ね試行錯誤していく必要がある。これらの働きは、文化的景観に関する資料作成及び調査と、地域住民への普及に直裁的に繋がるものと考えられる。</p>			
キーワード (5 語)			
文化的景観 文化財保護法 伝統的建造物群 野外博物館 博物館展示			